

# 公認スポーツ指導者制度 オフィシャルガイド 2017

## 目次

日本体育協会は約束します!!

### 公認スポーツ指導者制度

公認スポーツ指導者育成の基本コンセプト	4	公認スポーツドクター設置要項	14
指導者育成のあゆみ	5	公認スポーツ指導者資格概要	16
公認スポーツ指導者制度	6	共通科目カリキュラム	22
公認スポーツ指導者制度の解説	10	資格養成団体一覧	24

### 公認スポーツ指導者資格概要

競技別指導者資格における日本体育協会公認資格及び各中央競技団体独自資格の早見表	26
---	----

#### ◆競技別指導者資格

陸上競技	29	軟式野球	107	ボウリング	164
水泳	31	相撲	109	ボブスレー・リュージュ・スケルトン	170
サッカー	35	馬術	111	綱引	172
スキー	41	柔道	114	ゲートボール	173
テニス	49	ソフトボール	116	ゴルフ	175
ボート	55	フェンシング	119	カーリング	176
ホッケー	58	バドミントン	122	パワーリフティング	180
ボクシング	62	弓道	126	グラウンド・ゴルフ	181
バレーボール	64	ライフル射撃	129	トライアスロン	182
体操	68	剣道	133	バウンドテニス	183
バスケットボール	75	ラグビーフットボール	135	エアロビック	186
スケート	78	山岳・スポーツクライミング	137	ドッジボール	193
レスリング	84	カヌー	143	チアリーディング	194
セーリング	86	アーチェリー	146	ローラースポーツ	197
ウエイトリフティング	89	空手道	149	ダンススポーツ	198
ハンドボール	92	アイスホッケー	153	アメリカンフットボール	200
自転車競技	96	銃剣道	156	プロテニス	202
ソフトテニス	99	クレー射撃	159	プロスキー	204
卓球	103	なぎなた	160	スクーバ・ダイビング	208

#### ◆フィットネス資格

公認ジュニアスポーツ指導員	210	公認アスレティックトレーナー	214
---------------	-----	----------------	-----

公認スポーツプログラマー	211	公認スポーツ栄養士	216
--------------	-----	-----------	-----

#### ◆メディカル・コンディショニング資格

公認スポーツドクター	212	◆マネジメント資格	
公認スポーツデンティスト	213	公認アシスタントマネジャー	217
		公認クラブマネジャー	217

### 指導者登録・研修関係資料

公認スポーツ指導者登録規程	220
公認スポーツ指導者登録規程細則	221
手続きの流れ（スポーツ指導者）	223
登録料について	224
公認スポーツ指導者登録料（4年分）一覧	225
更新のための義務研修について	227
競技・資格別の指定研修について	229
日本体育協会公認スポーツ指導者処分基準	235
日本体育協会公認スポーツ指導者処分基準 別表	237

### 資料集

公認スポーツ指導者・登録状況登録者数一覧	244	スポーツ界における暴力行為根絶宣言	254
加盟団体等一覧	246	新しい時代にふさわしいコーチングの確立に向けて	
全国スポーツ指導者連絡会議運営規則	248	～グッドコーチに向けた「7つの提言」～	257
アスレティックトレーナー連絡会議運営規則	250	スポーツ指導者育成事業推進プラン 2013	259
加盟団体スポーツドクター代表者協議会運営規則	251	指導者保険のご案内	260
スポーツ宣言日本	252		



# 公認スポーツ指導者制度

# 公認スポーツ指導者育成の基本コンセプト

日本体育協会及び加盟団体等は、「スポーツ立国」の実現を目指し、生涯を通じた快適なスポーツライフの構築を図ることを通して、望ましい社会の実現に貢献するため、その推進の中心となるスポーツ指導者を育成する。



## 日本体育協会 公認スポーツ指導者とは

日本体育協会及び加盟団体等が、公認スポーツ指導者制度に基づき資格認定する指導者とは、常にプレーヤーを最優先するというスタンスに立ち、スポーツ医・科学の知識を活かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることのできる者である。

## 望ましい公認スポーツ指導者とは

公認スポーツ指導者は、日常の「生活／暮らし」にスポーツを取り入れることによって「豊かな人生」を得られることを広く一般に定着させるとともに、「仲間と楽しく行いたい」「うまくなりたいたい、強くなりたいたい」さらに「健康になりたい、長生きしたい」という欲求に応えられるよう、その実現に向けて「サポートする」活動を通して、望ましい社会の実現に貢献するという役割を持つ。

また、常に自己研鑽を図り、自ら成長・発展するとともに、社会的評価が得られるよう努力することが重要である。

## 安全で、正しく、楽しいスポーツ活動の場を確保するために

- ・スポーツに対して情熱を持ち、常にプレーヤーを最優先し、何事にも前向きに取り組む
- ・すべてのプレーヤーに常に公平な態度で接し、また活動に参加したくなるような雰囲気を作る
- ・すべてのプレーヤーの個性や長所を見つけ、伸ばす
- ・一方的、強制的な指導にならないよう、コミュニケーションスキルを高め、活動のねらいや内容をプレーヤーと共有する
- ・発育発達段階や技能レベルに即して指導計画と指導方法を工夫する
- ・プレーヤーの健康状態に注意をはらい、ケガや病気を起こさないよう配慮する
- ・天候や活動場所の整備状況、道具・用具の手入れや施設の破損確認などに配慮する

※「スポーツ立国」：スポーツの持つ力が、望ましい地域社会の実現に貢献するとともに、スポーツにかかわる自立・自律した人々の主体的かつ自治的なスポーツ実践や運動（ムーブメント）を通して、国内はもとよりアジア近隣諸国から地球規模へと拡がることによって、「スポーツ宣言日本」が目指す社会像の実現に寄与していくこと。

## 山岳・スポーツクライミング

### ■公認山岳指導員

**養成目的** 地域山岳会において、主に中高年登山者及び青少年少女に安全な登山が指導出来る指導者を養成する。

**役割** 区市町村の山岳団体を主な活動拠点とし、雪山や、岩登り目的を除くアウトドアライフの普及に努める。

**受講条件** 受講年度の4月1日現在満20歳以上で都道府県山岳連盟(協会)に所属し、同連盟(協会)が認める者。

**カリキュラム** 共通科目 35h(共通I) 専門科目 40h

**受講料** 共通科目 19,800円 専門科目 15,120円

**登録料(4年間)** 12,000円 +  $\alpha$  (都道府県により1,000円～4,000円程度)(初回登録時のみプラス3,000円)

**更新のための義務研修** 資格有効期限の6か月前までに、最低1回は、日本山岳・スポーツクライミング協会が定める研修会または日本体育協会(都道府県体協が実施する(認める)研修を含む)が実施する研修を受けなければならない。

**担当委員会** 日本山岳・スポーツクライミング協会 指導委員会

区分	カリキュラム内容	時間数		
		集合講習	その他	計
1 基礎理論 (縦走を中心に)	① 登山医学(健康管理、救急法)、気象、地形	1h	1h	2h
	② 登山計画、生活技術	1h	2h	3h
	③ 遭難対策(危険の回避、事故発生時の対応などセルフレスキュー)	1h	0h	1h
	④ 自然保護(登山者としての自然保護)	1h	1h	2h
	⑤ 指導者制度、指導者の役割	1h	0h	1h
	⑥ 法律(リーダーの法的責任)	1h	0h	1h
	計	6h	4h	10h
2 実技・指導実習 (縦走を中心に)	① 無雪期の歩行技術(出発準備、歩き方の基本、夏の雪渓歩行)	3h	3h	6h
	② 無雪期の生活技術(幕営、炊事など)	3h	0h	3h
	③ 縦走路の岩場の通過などを中心とした岩登り技術	5h	2h	7h
	④ 無雪期の遭難対策(事故発生時の対策、通信・連絡方法などセルフレスキュー)	3h	1h	4h
	⑤ 積雪期の歩行技術(歩き方の基本)	3h	0h	3h
	⑥ 積雪期の生活技術(幕営、炊事など)	3h	0h	3h
	⑦ 氷雪技術(ルート選定など)	4h	0h	4h
計	24h	6h	30h	
		30h	10h	40h

### ■公認スポーツクライミング指導員

**養成目的** 都道府県レベルにおいて、年齢・技術レベルに応じてクライミング教室や、学校登山部活動等で基礎的な実技指導にあたる指導者を養成する。

**役割** 都道府県レベルにおいて、スポーツクライミング・ボルダリングの技術の普及および初心者への指導に努める。国民体育大会の選手指導および監督となる。

**受講条件** 受講年度の4月1日現在満20歳以上で都道府県山岳・スポーツクライミング連盟(協会)が認めるもので下記条件の全てを満たす者。

(1) 5.10以上をリードクライミングできると判断された者。

(2) 人工壁に於いて、初心者への指導実績を有し、指導できると判断された者。

**カリキュラム** 共通科目 35h(共通I) 専門科目 40h

**受講料** 共通科目 19,800円 専門科目 15,120円

**登録料(4年間)** 12,000円 +  $\alpha$  (都道府県により1,000円～4,000円程度)(初回登録時のみプラス3,000円)

**更新のための義務研修** 資格有効期間が切れる6か月前までに、最低1回は、日本山岳・スポーツクライミング協会が定める研修会または日本体育協会(都道府県体協が実施する(認める)研修を含む)が実施する研修を受けなければならない。

**担当委員会** 日本山岳・スポーツクライミング協会 指導委員会及び競技委員会

区分	カリキュラム内容	時間数			
		集合講習	その他	計	
1	基礎理論	① クライミングの基礎	2h	0h	2h
		② クライミングの技術・安全（人工壁）	2h	0h	2h
		③ 医学（ストレッチ・スポーツ外傷・ドーピング防止）	2h	0h	2h
		④ 法律（指導者の法的責任）	1h	0h	1h
		⑤ 確保	1h	0h	1h
		⑥ グレード（説明）	1h	0h	1h
		⑦ ルート、課題のセッティング	1h	0h	1h
		⑧ 競技	3h	0h	3h
		計	13h	0h	13h
2	実技・指導実習	① クライミングの技術・安全（人工壁）	9h	6h	15h
		② 確保	3h	1h	4h
		③ グレード（グレーディング）	3h	0h	3h
		④ 競技	2h	3h	5h
		計	17h	10h	27h
		30h	10h	40h	

## ■公認山岳上級指導員

**養成目的** 都道府県レベルにおいて、登山者全体に積雪期、無雪期を問わず安全な登山が指導出来る指導者を養成する。

**役割** 都道府県レベルでの登山全体の普及に努める本州3,000m級山岳地帯において積雪期登山のリーダー候補者に指導が出来ること。

**受講条件** 受講年度の4月1日現在満25歳以上で都道府県山岳・スポーツクライミング連盟（協会）が認めるもので下記条件の全てを満たす者。

- (1) 本州なら3000m級山岳地帯において積雪期登山のリーダー候補者に指導ができると判断された者。
- (2) 4級以上の岩壁登攀のリーダー候補者に指導ができると

判断された者。

**カリキュラム** 共通科目 70h（共通Ⅰ＋Ⅱ）専門科目 40h

**受講料** 共通科目 15,120円（共通Ⅰ免除者は8,640円）専門科目 10,800円

**登録料（4年間）** 12,000円＋α（都道府県により1,000円～4,000円程度）（初回登録時のみプラス3,000円）

**更新のための義務研修** 資格有効期限の6か月前までに、最低1回は、日本山岳・スポーツクライミング協会が定める研修会または日本体育協会（都道府県体協が実施する（認める）研修を含む）が実施する研修を受けなければならない。

**担当委員会** 日本山岳・スポーツクライミング協会 指導委員会

区分	カリキュラム内容	時間数			
		集合講習	その他	計	
1	基礎理論 （登攀・氷雪を 中心に）	① 登山とスポーツクライミング	1h	0h	1h
		② 登山医学（健康管理、救急法）、気象、地形	1h	1h	2h
		③ 登山計画、生活技術	0h	2h	2h
		④ 沢登り	0h	1h	1h
		⑤ 登攀技術（自然の岩場、人工壁）	2h	0h	2h
		⑥ 積雪期の登山（歩行、山岳スキーを中心に）	1h	0h	1h
		⑦ 遭難対策（危険の回避、事故発生時の対応などセルフレスキュー）	1h	0h	1h
		⑧ 指導者制度、指導者の役割	1h	0h	1h
		計	7h	4h	11h
2	実技・指導実習 （登攀・氷雪）	① 無雪期の歩行技術（歩行の基本、夏の雪渓歩行を含む）	0h	2h	2h
		② 積雪期の歩行技術（歩き方、ラッセル含む）	2h	2h	4h
		③ 無雪期の生活技術（不時露営含む）	2h	0h	2h
		④ 積雪期の生活技術（簡易露営含む）	2h	2h	4h
		⑤ 登攀技術1（自然岩場にて登攀・確保全般及び用具など）	2h	3h	5h
		⑥ 登攀技術2（人工壁にて登攀・確保全般及び用具など）	2h	0h	2h
		⑦ 氷雪技術（登攀・確保全般及び用具など）	2h	3h	5h
		⑧ 無雪期の遭難対策（連絡、捜索、搬送などセルフレスキュー）	0h	2h	2h
		⑨ 積雪期の遭難対策（連絡、捜索、搬送の基本などセルフレスキュー）	1h	2h	3h
		計	13h	16h	29h
		20h	20h	40h	

## ■公認スポーツクライミング上級指導員

**養成目的** 都道府県レベルにおいて、年齢・技術レベルに応じた実技指導にあたり、共にクライミング教室・競技会など企画・立案・運営に参画できる実行能力を有する指導者を養成する。

**役割** 都道府県レベルにおいて、スポーツクライミング・ボルダリングの技術向上・発展・普及・指導員の育成に努め、事業推進の中心的役割を果す。国民体育大会の選手指導および監督となる。

**受講条件** 受講年度の4月1日現在満25歳以上で都道府県山岳・スポーツクライミング連盟（協会）が認めるもので下記条件の全てを満たす者。

(1) 5.11以上をリードクライミングできると判断された者。

(2) 自然壁に於いても実績を有し、指導員を指導できると判断された者。

**カリキュラム** 共通科目 70h（共通Ⅰ＋Ⅱ）専門科目 40h

**受講料** 共通科目 15,120円（共通Ⅰ免除者は8,640円）  
専門科目 10,800円

**登録料（4年間）** 12,000円＋α（都道府県により1,000円～4,000円程度）（初回登録時のみプラス3,000円）

**更新のための義務研修** 資格有効期間の6か月前までに、最低1回は、日本山岳・スポーツクライミング協会が定める研修会または日本体育協会（都道府県体協が実施する（認める）研修を含む）が実施する研修を受けなければならない。

**担当委員会** 日本山岳・スポーツクライミング協会 指導委員会及び競技委員会

区分	カリキュラム内容	時間数		
		集合講習	その他	計
1 基礎理論	① クライミングの技術・安全（人工壁）	1h	1h	2h
	② クライミングの技術・安全（自然壁・アプローチ）	1h	1h	2h
	③ 医学（ストレッチ・スポーツ外傷・ドーピング防止）	1h	1h	2h
	④ 法律（指導者の法的責任）	1h	1h	2h
	⑤ 確保	1h	0h	1h
	⑥ グレード（説明）	1h	0h	1h
	⑦ ルート、課題のセッティング	1h	0h	1h
	⑧ 競技	3h	0h	3h
	計	10h	4h	14h
2 実技・指導実習	① クライミングの技術・安全（人工壁）	2h	4h	6h
	② クライミングの技術・安全（自然壁・アプローチ）	1h	8h	9h
	③ 確保	2h	1h	3h
	④ グレード（グレーディング）	2h	1h	3h
	⑤ ルート、課題のセッティング	2h	1h	3h
	⑥ 競技	1h	1h	2h
	計	10h	16h	26h
		20h	20h	40h



## ■公認山岳コーチ

**養成目的** 全国レベルにおいて、登山者全体に厳冬期を含む積雪期、無雪期を問わず安全な登山が指導出来る指導者を育成する。

**役割** 全国レベルでの登山全体の普及に努め、日本山岳・スポーツクライミング協会の講習会・研修会、文登研の研修会で講師が出来ること。本州3,000m級山岳地帯において積雪期登山のリーダー候補者に指導が出来ること。

**受講条件** 上級指導員資格取得後5年以上経過している者。または受講年度の4月1日現在満25歳以上で都道府県山岳・スポーツクライミング連盟（協会）に所属し、同連盟が認める者で下記の実績のいずれかを満たす者。

(1) 国内外を問わず、夏冬を問わず、著名ルートを第5等以内で登っていること。

(2) 文部科学省登山研究所講師5年以上。

(3) 7000m以上の高峰の登頂者、但しその時の役割は登攀隊長以上。

日本山岳・スポーツクライミング協会が認めれば専門科目は1、2のレベルを乗り越えて受講も可能。

**カリキュラム** 共通科目 152.5h（共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ）専門科目 60h

**受講料** 共通科目 19,440円 専門科目 10,800円

**登録料(4年間)** 12,000円＋α（各都道府県により1,000円～3,000円程度）（初回登録時のみプラス3,000円）

**更新のための義務研修** 資格有効期限の6か月前までに、最低1回は、日本山岳・スポーツクライミング協会が定める研修会または日本体育協会（都道府県体協が実施する（認める）研修を含む）が実施する研修を受けなければならない。

**担当委員会** 日本山岳・スポーツクライミング協会 指導委員会

区分	カリキュラム内容	時間数			
		集合講習	その他	計	
1	基礎理論 (総合的に)	① 指導者と岳連、日山協の組織	2h	0h	2h
		② 登山医学（運動生理、ドーピングなど）	2h	0h	2h
		③ 積雪期の登山（積雪と雪崩を中心に）	0h	2h	2h
		④ 登攀技術（確保理論、グレードの理解を中心に）	0h	2h	2h
		⑤ 遭難対策（セルフレスキュー・チームレスキュー）	0h	3h	3h
		⑥ 指導法、指導者の心構え	2h	0h	2h
		⑦ 法律（山岳事故、リーダー責任など具体例の研究）	0h	2h	2h
		⑧ 山岳競争（大会の種類、運営など）	2h	0h	2h
		計	8h	9h	17h
2	実技・指導実習 (登攀・氷雪)	① 積雪期の歩行技術（ラッセル、ルート選定含む）	2h	0h	2h
		② 積雪期の生活技術（簡易露営、雪洞含む）	4h	0h	4h
		③ 登攀技術（自然の岩場にて登攀・確保全般及び用具など）	4h	4h	8h
		④ 氷雪技術（登攀・確保全般及び用具など）	4h	4h	8h
		⑤ 山岳スキー技術（ルート選定、歩行、滑降など総合的に）	5h	0h	5h
		⑥ 登攀時の遭難対策（連絡、捜索、搬送実習などセルフレスキュー）	5h	1h	6h
		⑦ 積雪期の遭難対策（連絡、捜索、搬送実習などセルフレスキュー）	8h	2h	10h
		計	32h	11h	43h
		40h	20h	60h	

## ■公認スポーツクライミングコーチ

**養成目的** 国内レベルにおいて、競技者の育成・発掘にあたる指導者を養成する。

**役割** 広域エリアでのスポーツクライミング競技の強化にあたり、各都道府県山岳連盟（協会）における競技者育成システムの研究開発に参画する。

**受講条件** 受講年度の4月1日現在満25歳以上で、競技経験または競技指導経験を有し、日本山岳・スポーツクライミング協会が認めた者。

5.12のリード経験と指導が出来る者。

**カリキュラム** 共通科目 152.5h（共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ）専門科目 60h

**受講料** 共通科目 19,440円 専門科目 別途定める

**登録料(4年間)** 12,000円＋α（各都道府県により1,000円から3,000円程度）（初回登録時のみプラス3,000円）

**更新のための義務研修** 資格有効期限の6か月前までに、最低1回は、日本山岳・スポーツクライミング協会が定める研修会または日本体育協会（都道府県体協が実施する（認める）研修を含む）が実施する研修を受けなければならない。

**担当委員会** 日本山岳・スポーツクライミング協会 指導委員会及び競技委員会

区分	カリキュラム内容	時間数			
		集合講習	その他	計	
1	基礎理論	① スポーツクライミングの基礎（IFSC・ルール）	2h	1h	3h
		② トレーニング（計画・体力・メンタル・コンディショニング）	4h	2h	6h
		③ 医学（ドーピング、損傷のケア、予防）	2h	1h	3h
		④ 栄養学と生理学	3h	1h	4h
		⑤ 技術論（ムーブ、テクニックおよび用具）	2h	2h	4h
		⑥ コーチング（情報収集・コミュニケーション指導法）	2h	3h	5h
	計	15h	10h	25h	
2	実技・指導実習	① トレーニング法の実戦	5h	2h	7h
		② コーチングの実戦（ムーブとテクニック、オブザベーション、課題の攻略）	13h	4h	17h
		③ セッティング	5h	2h	7h
		④ ケア・救急処置（ストレッチ・アイシング・テーピング）	2h	2h	4h
	計	25h	10h	35h	
		40h	20h	60h	

## ■公認山岳上級コーチ

**養成目的** 全国レベルにおいて、登山者全体に厳冬期を含む積雪期、無雪期を問わず安全な登山が指導出来る指導者を育成する。海外登山（概ね6,000m以上）においても安全指導が出来る指導者を養成する。

**役割** 海外を含め全国レベルでの登山全体の普及に努め、日本山岳・スポーツクライミング協会の講習会・研修会、文登研の研修会で主任講師が出来ること。概ね6,000m以上の登山でもリーダーが出来ること。

**受講条件** 受講年度の4月1日現在満30歳以上で、コーチを5年以上経験していること。都道府県山岳・スポーツクライミング連盟（協会）に所属し、同連盟（協会）が認める者。

**カリキュラム** 共通科目 192.5h（共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ＋Ⅳ）専門科目 40h

**受講料** 共通科目 47,520円（共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ免除者は28,080円）専門科目 17,280円

**登録料（4年間）** 12,000円＋α（各都道府県により1,000円～3,000円程度）（初回登録時のみプラス3,000円）

**更新のための義務研修** 資格有効期限の6か月前までに、最低1回は、日本山岳協会が定める研修会または日本体育協会（都道府県体協が実施する（認める）研修を含む）が実施する研修を受けなければならない。

**担当委員会** 日本山岳・スポーツクライミング協会 指導委員会

区分	カリキュラム内容	時間数		
		集合講習	その他	計
1 基礎理論 (今後の展望を踏まえて)	① 海外遠征登山（手続き、高山病、遭難の例など）	3h	0h	3h
	② 積雪期の登山（本州中部や、各山岳地域の特徴など）	2h	0h	2h
	③ 登攀技術（今後の日本及び世界の登攀の展望など）	0h	2h	2h
	④ 遭難対策（遭難事故を防ぐには）	0h	3h	3h
	⑤ 指導法（今後の指導者像、指導理論など）	0h	3h	3h
	計	5h	8h	13h
2 実技・指導実習 (新技術を中心に実践意見交換)	① 登攀技術（自然・人工の時々における話題で実践・実習・協議）	3h	2h	5h
	② 氷雪技術（時々における話題で実践・実習・協議）	2h	3h	5h
	③ 山岳スキー技術（総合技術）	3h	0h	3h
	④ 登攀時の遭難対策（チームレスキューを中心に協議）	3h	3h	6h
	⑤ 積雪期の遭難対策（チームレスキューを中心に協議）	4h	4h	8h
	計	15h	12h	27h
		20h	20h	40h

## 《専門科目における講習・試験の免除》

- 日本山岳・スポーツクライミング協会が定める指導者講習・研修を受講した者。  
受講した内容程度に応じ、日本山岳・スポーツクライミング協会指導常任委員会が審査の上、免除科目を決定する。
- 日本山岳協会の以下の資格を保有する者は、以下の専門科目の講習・試験を免除する。
  - 日本山岳・スポーツクライミング協会公認クライミング競技審判員  
スポーツクライミング指導員 基礎理論⑧ 実技・指導実習④  
スポーツクライミング上級指導員 基礎理論⑧ 実技・指導実習⑥
  - 日本山岳・スポーツクライミング協会公認クライミング競技ルートSetter  
スポーツクライミング指導員 基礎理論⑥～⑧ 実技・指導実習③、④  
スポーツクライミング上級指導員 基礎理論⑥～⑧ 実技・指導実習④～⑥
- 日本山岳・スポーツクライミング協会が主催する「登攀技術研修会上級指導員養成コース」を修了した者は、以下の専門科目の講習・試験を免除する。  
山岳上級指導員 基礎理論①～⑤、⑧ 実技・指導実習①、③、⑤、⑥、⑧
- 日本山岳・スポーツクライミング協会が主催する「氷雪技術研修会上級指導員養成コース」を修了した者は、以下の専門科目の講習・試験を免除する。  
山岳上級指導員 基礎理論⑥、⑦ 実技・指導実習②、④、⑦、⑨